



意外に多い「低温やけど」に注意



「低温やけど」ってなに？・・・見た目以上に重症化しやすい。

体温より少し高い温度に長時間接することで起こる。「低温やけど」は体温より少し高い温度(44℃から 50℃前後)に数時間、接触する事で起こります。もちろん温度が上がれば接する時間が短くてもやけどを起こします。長時間あたためられると皮膚だけではなく、その下にある脂肪細胞まで熱が伝わります。つまり、通常の高温でのやけどは皮膚の表面ですが、「低温やけど」の場合は脂肪細胞のような皮膚の深いところで起こるものなのです。深いところのやけどは重症化しやすいのです。

高齢者は皮膚が薄く、感覚の機能が低下しているため、暖房機器の使い方を間違えると、
重いやけどを負うリスクが高いと言われています。

カイロは直接肌に貼らない。



低温やけどの原因として最も多いのが「カイロ」です。国民生活センター調べによる「商品別の低温やけどの被害件数」でも第1位になっています。カイロは、誤った使用方法や不注意によって低温やけどを負う高齢者が多く、場合によっては長時間の利用によって、皮膚の奥深くまでやけどしてしまうケースも見受けられます。※使い捨てカイロは当てた部位を圧迫しないで使用する。皮膚に伝わった熱は血流で運ばれます。使い捨てカイロを当てた部位が圧迫されると血流が阻害されるため、皮膚の温度が上昇して低温やけどを負うおそれがあります。帯やベルトの着用、長時間の運転や座り仕事、就寝時には、低温やけどのリスクが高まります。

就寝時に湯たんぽの利用は避ける。

「カイロ」の次に低温やけどの原因としてランクインしているのが「湯たんぽ」です。例えば就寝時など、自分で気がつくことができない状態で使用するのはとても危険です。湯たんぽは、気づいたときに、皮膚の奥深くまでやけどを負っているケースがあるので、注意して取り扱うようにしましょう。

同様に「電気あんか」での低温やけどにも注意しましょう。



こたつ・電気カーペットでの転寝(うたたね)による低温やけどに注意！！

ストーブ・ファンヒーターは距離に気をつける。

意外にも多いのが「ストーブ」や「ファンヒーター」による低温やけどです。ストーブの近い場所にいた利用者がやけどを負ってしまうケースもあるので、利用の際には注意が必要です。「暑い」「寒い」などの感覚が低下している高齢者も多いので、設定温度や利用者との距離にも十分気をつけて、利用者が低温やけどに苦しむことがないように、対策を行っていきましょう。



低温やけどの原因

(国民生活センター調べ)

- 1位 使い捨てカイロ
- 2位 湯たんぽ
- 3位 電気あんか
- 4位 こたつ
- 5位 電気カーペット

低温やけどを防ぐには

- 同じ部位を長時間温めない。
- 違和感や熱いと感じたら使用を中止。就寝前に布団の中に湯たんぽを入れ、温まったら湯たんぽを布団から出す。
- 使い捨てカイロは就寝時には使わない。
- 糖尿病の神経障害のある人、皮膚感覚が低下している人は、使用前等に医師に相談しましょう。

